



2003 年 3 月 19 日

報道各位

株式会社 日本総合研究所

「Linux 用セキュリティ強化モジュールの開発」について

株式会社 日本総合研究所（本社 東京都千代田区 社長 奥山 俊一、以下 日本総研）は、Linux のセキュリティを強化するためのソフトウェア（Linux Basic Security Modules、以下 LBSM）を独自開発し、4 月より公開する予定です。開発中の LBSM は、Linux 用カーネルモジュールであり、導入済みの Linux カーネルを入れ替えることなく、セキュリティを強化することが可能な設計となっているのが特徴です。また同時に、LBSM を組み込んだセキュアなシステム構築サービスも開始予定です。Linux に関して、独自開発した国産のセキュリティ強化技術によるサービス提供は、国内 Sier では初となります。

1. 開発の経緯

不正アクセスの増加などにもない、企業・官公庁・地方公共団体等で安全性を強化したオペレーティングシステム導入への関心が急速に高まっています。一方、電子政府関連のシステムに、ソースコードが広く公開された Linux 等のオープンソース・ソフトウェアを積極的に採用しようとする動きも見受けられます。

こうした動きを捉え、日本総研では、国産技術による安全なオペレーティングシステムの需要が高まると判断し、Linux のセキュリティを強化するソフトウェアの自社独自開発を行って参りました。

さらには、セキュリティを強化した Linux をプラットフォームとしたシステム構築サービスを開始し、高度なセキュリティ対策が必要とされる企業や官公庁・地方公共団体向けにサービスを展開致します。

2. 機能

開発中の LBSM は、TCSEC（通称「オレンジブック」）に規定された B1 レベル(注 1)に必須とされる機能のうち、2 つの機能を実現させるためのもので、それ以外に、オープンソース・ソフトウェアを活用した機能を組み合わせることにより、全体として Linux のセキュリティ強化を図るものです。

具体的に実現する機能は、以下のとおりです。

- (1) 監査機能
- (2) 必須アクセス制御機能
- (3) バッファオーバーフロー対策機能

※(1)、(2)については当社技術による実装であり、(3)についてはオープンソース・ソフトウェアを活用します。

3. スケジュール

4月を目処に公開の予定です。

さらに、このソフトウェアを使用してセキュリティを強化したLinux上で、WEBサーバやメールサーバ、DNSサーバなど様々なアプリケーションを実現していきます。

将来的には今回開発した機能を、ほかのセキュリティ機能とあわせて、様々な企業参画のもと、ISO 15408の認証取得も視野に入れた上で、「Trusted OS」として取りまとめていくことを目指します。

(注1)TCSEC（通称「オレンジブック」）に規定されたB1レベル

TCSECは米国政府の調達基準であり、OSを信頼性のレベルにより下記に分けて、それぞれのレベルで持つべきセキュリティ要件について定義しています。

- A 検証された設計
- B3 セキュリティドメイン
- B2 構造化保護
- B1 ラベル式保護（強制的なアクセス制御）
- C2 アクセス制御による保護
- C1 任意保護
- D 最低限のセキュリティ

※Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

以上

◇本リリースは総務省記者クラブ・経済産業記者会にて配布しております。

ご照会：日本総合研究所

セキュリティ事業推進部 田中 保彦 Tel：03-3288-4766 mail：info@sec.jri.co.jp

女部田 武史 Tel：03-3288-4766 mail：info@sec.jri.co.jp

広報部 佐藤 吉仁 Tel：03-3288-5360 mail：sato@tyo.mhq.jri.co.jp